

NPO法人 共に歩む市民の会 会 報

共に歩む市民の会広報委員会

通巻 第35号

〒241-0022

横浜市旭区鶴ヶ峰 2-1-16

☎045-953-6727

2012年8月25日 発行



浜家連 元常任理事
保土ヶ谷区家族会 役員 沖柳吉彦

皆さん、お元気ですか！毎日暑い中、病いの友？と共によく耐えながら過ごしていらっしゃいますね…。生きているだけで立派です（誰かがよう言われる言葉、そうです、SST の高森先生ですね）人は約70兆の細胞に守られ命を保っているようですが、すごい事ですね。今日も1日元気で過すことって平凡じゃない。すごく感謝だと思います。今、精神の病いで苦しんでいる人300～400万人、自殺者3万5千人。この自殺者の2～3割は、心の病いの人と言われています。命は1回きりです。大事に、ともかくも生き抜く事です。医療や行政は人の内面の解決には手を貸してくれません。人との絆の中でこの病も回復していくものと信じ疑わない沖柳です。50年前、医薬も知識も不充分な時代、名称も精神分裂…と非人道的な扱いを受けていた時に比べれば、今は格段と良くなっていますが、未だ偏見、差別の根は深く心痛のかぎりです。

この9月17日、家族会フォーラム B ブロックでは『忘れないで「希望」という薬を』とのタイトルで、静岡県焼津のすばらしい女医さんをお呼びして、共に精神の世界に明るい希望の光を学び合いましょう。この先生は 10 才のとき母が統合失調を患った中で児童精神科医となられました。その専門家でもご自身の母のことはオープンに出来ずもんもんとしていた時に漫画家中村ユキさん（本人がお腹にいる時に母が統合失調症）に知り合い、心のじゅばくから開放されたのです。見事、人の出会いの中でご自身の心の成長を開花され、今は診療、執筆、講演と大多忙な方ですが、皆さんとの出会いを楽しみにおいで下さいます。今の医療に心の薬もと、強く思っている沖柳とぴったりの先生なのです。

この旭区は、温かい人の出会いがそこそこにあります。皆さんも信じて、希望をもって、この共に歩む市民の会でいやされて下さい。熱い熱いエールを沖柳はおしみなく送り続けます（あの世に行つても！）。

私自身もたくさんの当事者、家族、関係者とつながっていますが、私が主宰するスペース「ゴン」を毎月第3日曜に戸塚区平戸ケアプラザで約7年続けています（現在では、当事者、家族、ボラ、PSW 約17名）。その中の1人は、6年前に是非参加したいと入会。無欠席で続けて居られます（継続は力なりを想い出します）。当初、アルコールと統失でかなり重く、家では母、姉、弟に DV を加え、一家は崩壊寸前の様でしたが奇跡が起きたのです。本人が小学5年から異常（本人談）を感じ、家族、友人から冷たくされ死ぬ思いの中、アルコールに手を出し、自己を肯定してほしくて DV や暴言を家族に発信し続けていたのでしょうか…。私と知り合う直前に、この病を何としても良くしたいと強い意志が働いたのです。そして、沖柳の会の中に、温かい自分の居場所がありそうだと思ったそうです。1年間は横のソファで寝ているだけでの参加（後で耳だけ起きていた）、2年目からキツネ目ながら時々話し始め、つらかった幼少から現在までをとつとつと話し、私達も胸打たれました。今6年目、アルコールを断ち、統失も軽くなり、介護事業で1年10ヶ月障害者枠で仕事を続けています。彼の素晴らしいは、病を回復したいとの強い意志と温かな輪の中を1回も休まないで6年通した努力でした。今、私のボラ会ではすてきな笑顔であらゆることを感謝に変える力があり、立派に私の代役もこなしています（今、当会は満員で卒業生が出ないと入会できませんので悪しからず）。

皆さんも勇気と希望をもって良い方々と出会いましょう。この旭区は豊かな人の出会いの宝庫でもあります。沖柳は、どなたにもどこからでもいつも心を結んでいきたいと願っています。

最後に、私の好きな言葉

- より偉大なことができるよう健康を求めたのに、より良きことができるよう病弱を与えられた（アーリカ、作者不明）
- 弱いものこそ何かを成し遂げられる（沖柳）

共に歩む市民の会 第8回総会報告

ほっとぽっと 非常勤職員 宮地博美

梅雨真っ最中、小雨の降る中、6月9日(土)パレット旭・多目的研修室において、共に歩む市民の会第8回通常総会が行なわれました。

正会員86名のうち、出席者24名、委任状34通の提出により定数に達し、総会は成立となりました。司会はあけぼの会の長谷川さん、議長は丹羽さんが務め、議案はすべて可決されました。

1号議案(事業報告)では、法人事務局スタッフを募集するも職員配置に至らず、ほっとぽつの職員体制も、欠員・産休・病欠など厳しい体制であった中、「新しい場」検討会の開催や二俣川ハウスのフリースペースつくりや訪問活動。拠点においては、フクロウ電話や語らい電話も含め電話相談の増加傾向にあることや、新しいプログラムやイベントへの工夫などが報告されました。

地域交流促進事業の中で、地域の方のケアプラザに対する認識を精神障害の「相談窓口」でもあると変換してもらうためには、ただ待つのではなくこちらから出向いていく、福祉フェスタへの参加や文化活動を通じての交流・啓発など積極的に発信する姿が印象的でした。なお、2011年度で、地域移行・地域定着支援事業は終了いたします。

3号議案(事業計画)では、「たまり場」の7年、ほっとぽっと開所からの7年、そして今年度を新たな7年の始まりと位置付けました。新たな事業として自立生活アシスタント事業も始まります。

地域を支える力となることを目指し、相談活動・拠点活動・アウトリーチ活動を互いに連携していく体制つくり。当事者、家族との共同、「当事者性」を基にした活動の充実や、

会の事務局体制や広報についての整備や、幅広い支援の検討など、説明がありました。

最後に、9団体の紹介と新人職員(塚田さん、福本さん)の紹介があり、無事総会は終了しました。



<理事会より>

第35回理事会 2012年5月11日(金)18:30~21:00 於ほっとぽっと別館

理事8名出席

審議事項:平成23年事業・決算報告、平成24年度事業予算計画案、総会の開催について他

第36回理事会 2012年7月12日(木)18:30~22:00 於ほっとぽっと本館

審議事項:今年度の事業計画について、相談支援事業と生活支援センターについて他

新規会員 正会員2名 賛助会員1名 退会 賛助会員1名

◆ 会員の方へ 会費納入のお願い ◆

24年度の会費をまだ納めていない方は下記へお振込くださいようお願い致します。

郵便振替口座番号 00280-6-132476

加入者名 特定非営利活動法人 共に歩む市民の会



総会2部 《しゃべり場》ピアって何やねん!?

～4人衆の大坂レポートを聞いて一緒に語ろう～を行いました。



2008年5月に開催した「調査研究試行事業報告会」にゲストでお迎えした尾山智子さんより「ピアヘルパー10年を記念して交流の集いを開くので来ませんか」の一言をきっかけに3月17日（土）、18（日）に1泊2日でピアスタッフ2名（和田（公）、澤田）、職員2名（川田、浜田）で大阪研修へ行ってきました。

早朝に出発をし午前中に大阪市生野区の生活支援センター「すいすい」を訪問。ウリは、「ピア」ということで当事者常勤職員の12年間活動を続けている塚本さんより「細く長く働く事の大切さ」「ピアという言葉の危うさ」や様々な活動や取り組みのお話を聞かせていただきました。

その後、2日間にわたり「ピアヘルパー10周年記念交流会」に参加し、ピアヘルパーとして働く想いや悩み、やりがいや各事業所のシステムなどなど話を聞いてきました。そして、話を聞けば聞くほどに「ピア」とは何ぞや???を考えさせられました。

大阪のパワーとバイタリティを全身で感じながら我々にとっての「ピア」ってどんな事をさし、共に働き、共に歩む事を是非この第2部で報告を兼ねながら会員の皆様と一緒に語り考えられたらと思い今回のテーマとなりました。

研修報告後のディスカッションでは、活動を続ける当事者の思いや以前住んでいた自治体の取り組みについての話題やボランティアで関わりのある方からは「ピアという言葉自体が初めて聴いた」などの意見を頂きました。また、ご家族の立場から「結局のところピアってなんなんだろうか？絆を深めていくことが大切なんだろう。」「壮大なテーマであり、結論は出ない。でも、このような事を話し合うことでまさに仲間意識が生まれる。話す機会を沢山持つこと、継続して積み重ねていくことが大切。皆、話しながら元気を回復していくのだと思う。だからこそ、話す場が必要なんだと思った。現時点、結論が出なくていいんだと思う。」など活発な意見を頂きました。

報告をし、多くの方々の参加の中で皆さんのお見や想いを拾えたわけではありませんが、この時間を共有できた事に感謝します。

浜田 都美子

*「大阪研修報告」の詳細を載せたレポート集を作成しました。近日、発送いたします。

ご希望の方は、ほっとぽっと浜田までご連絡ください。TEL：953-6727

大阪研修感想

澤田高綱



総会2部の「ピアってなんやねん？」という題。大勢のいろんな立場の人たちがひとつのことに対して話し合い、そうしていくこと、その空間こそがピアであったと思います。共にその見えない先を探そうとして歩む姿勢こそがピアだったと思います。

大阪研修では、いろいろ勉強になったことがありました。でも、一番行ってよかったですのはピアという言葉を安易に使っていた自分に気づきました。ピアという言葉一つで、その人それぞれの考えがあり、対等、仲間、偏見ったり、地域や人により違うのだなと感じました。ですから総会2部のタイトルにしようと思いました。

大阪ラビリンス

和田公一



最近、物事を理屈で考える事に辟易してきた。初めての大阪。私にとって大阪研修は、何だったのか？それは、NPOヒットすいすいの、ピアで常勤職員の塚田正治氏の人間力の大きさであったり、鶴橋の居酒屋のにおいてある。大阪は大阪である事に、プライドを持っている街だ。今回の研修は、私にとって、精神保健の勉強をしてきた気がしない。今となって考えさせられるのは、「地軸のブレない生き方をしなければ。」という事である。それが大阪研修の成果だと思う。

精神障害をもつ人の支援とほっとぽつの今後を共に考えましょう！

～「計画相談」実施にあたっての意見書を市に提出～

ほっとぽつと 川田 剛

「計画相談」ってナニ？

障害者自立支援法が今年4月に改正され、障害者が法定の福祉サービスを利用する際に「計画相談」が実施されることとなりました。横浜市はいまそのための相談支援体制づくりを急いでおり、24～26年度の3年間かけて対象者を拡大していくとのことです。

「計画相談」とは聞きなれない言葉ですね。健康福祉局の資料（H24年5月）によると――

『障害児者の抱える課題解決や自立した生活を支えるための適切なサービス利用を図るため、支給決定時からサービスの必要性や必要量を考慮するなどケアマネジメントを実施し、きめ細かく支援していくこと』となっています。

高齢者（介護保険）のケアマネージャーに近いかたちが導入されるものと一応考えられます。



「計画相談」と生活支援センターをめぐって

さて、計画相談は指定を受けた事業所が実施することになります。精神障害分野において公平中立な立場で実施する事業所を確保する観点から、健康福祉局は生活支援センターが来年度に向けて事業所指定を受ける方向性を提示したうえ意見を求めてきました。来春には市内全区に生活支援センターが揃うこともあるってセンターのあり方も併せて見直したいとのことでした。

職員ミーティング、市民の会理事会、支援センターの会議で話し合いを重ねるにつれ、悩みが深まりました。充実した地域生活に向けたプランを本人と一緒につくっていく役割を積極的に担うことにはもちろん異論ありません。営利優先の事業者参入が言われる中で市民の会こそ担うべき、の思いもあります。その一方で、精神障害をもつたちは福祉サービス利用に至る以前に長く複雑な関わりや経過を要することが多いし、いわゆる「サービス利用」で解決しない悩みや相談も幅広くあります。これまで支援センターは横浜市が言うところの一次相談支援機関として「よろず相談所」の役割を精一杯果たそうとしてきましたが、今でも手が回っていません。家族機能が失われてきた中でつながりを持てずに孤立している膨大な人たちの存在もあります。こうした地道な仕事、目に見えない仕事が新しい役割を担うために後回しになってしまふのではないか・・・特にB型センター（ほっとぽつと含む）の場合はA型に比べ予算や人員体制が貧弱で余裕がきわめて乏しい・・・。同じ思いの市内9カ所のB型センター代表が何度も集まって話し合った結果、「計画相談を引き受ける前提として、まずB型センターの基礎体力（スタッフとスペース）を強化してほしい」と6月中旬に共同で要望しました。

市民の会として独自に意見書を提出

一方で、旭区は精神障害者数や相談件数が市内でも有数の多い区です。その旭区で「ほっとぽつと」を運営する立場から、共に歩む市民の会としても独自に局へ意見書を提出しました。

- ① 旭区における生活支援センター機能充実に向けた具体的な検討を開始してほしい
- ② 「計画相談」のあり方について当事者等の意見を聞く機会をもうけてほしい



今後に向けて

こうした要望や意見書の内容については残念ながらすぐに改善策がとられる状況ではありません。今後とも関係者の理解を広げつつ粘り強く訴え働きかけていかなくてはなりません。そんな中で私たちにできる選択としてはどんなことがあるのでしょうか。単に計画相談を受けるか受けないかの問題というより、一人ひとりが安心してその人らしく尊厳を保って暮らしていくという本来の目的にどうすれば近づいていくか。それこそが問われているのでしょう。今のありようを見直し、変えられることは思い切って変えたいと思い



ます。次の一步をぜひご一緒に見つけていきませんか。

ほっとぽっとで

「自立生活アシスタント事業を始めました」

ほっとぽっとスタッフ 福本智

4月からほっとぽつのスタッフになりました福本智(ふくもとさとし)です。自立生活アシスタント事業を担当しています。どうぞよろしくお願ひします。

ところで自立生活アシスタント事業って聞いたことがありますか？通称“自アシ”と呼ばれています。自アシは、知的障害・精神障害・発達障害・高次脳機能障害をお持ちで一人暮らしであったり一人暮らしを目指している方や、同居家族がいても福祉サービスに繋がっておらず生活上の困り事を抱えている方などと一緒に、住み慣れた地域で安心して生活ができるように考えて、自分らしく暮らすことを支える事業です。横浜市独自の制度で平成13年度から事業展開され、平成24年7月31日現在横浜市内33か所の事業所が委託を受けて行っており、ほっとぽっとでは精神障害の方を対象に今年4月から始めています。

生活をしていると、「部屋の中が物でいっぱいだ」

「お金を上手に使えないなあ…」

「ご近所づき合いで苦手」

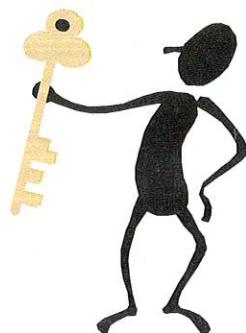
「この書類はよくわからないから、そのままにしておこう…」

「お医者さんに伝えたいことがあるんだけど、上手く言えないな…」

など、様々生じることがあると思います。通院同行や引っ越しの手伝いなどで1回のみの支援は出来ませんが、自立に向けた支援を継続的に行いながらご本人の安心を増やしていきます。

具体的には、

- 衣食住に関する相談
- 健康管理に関する相談
- 金銭管理に関する相談
- 対人関係の相談や調整
- 職場や通所先との連絡や調整



などを一人ひとりに合わせて関係者や関係機関と連携を取りながらご本人を支えていきます。自アシについて当文だけではわかりにくいと思います。ご質問やご不明な点などがあればいつでも福本をはじめほっとぽつのスタッフにご遠慮なくお声をお掛けください。



2012 秋 市民の会・ほっとぽっと スケジュール

* 地域交流

§ 旭ふれあい区民まつり §

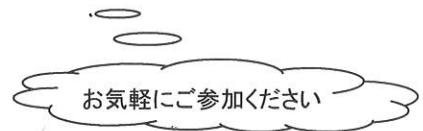
日時：10月 21 日（日）

前日・当日のボランティアさんを募集しています。

詳細お問い合わせ／参加希望の方は、ほっとぽっとまでご連絡ください。



スケジュール



§ ほっとたつはな亭コンサート（予約優先・定員 25 名）§

尺八の米澤浩さんと箏の熊沢栄利子さんによる邦楽のひととき。

日時：9月 12 日（水）14：00 開演（13：45 開場）

会場：ほっとぽっと別館

入場料（飲み物・お菓子付）：障害者手帳をお持ちの方 500 円

一般の方 1000 円

共に歩む市民の会会員の方 800 円

§ もちより朗読会 §

コラム・詩・小説・童話・マンガ・・・好きなものを持ち寄った朗読会。

日時：9月 28 日（金）14：00～

会場：ほっとぽっと別館

読みたい方：8人位 1人 10分程度でお願いします。

聞きたいだけの人も参加OKです。

参加費：300 円

詳細はほっとぽっと宮地までご連絡ください。

* やみなべ会

《前回の報告》

7/25(水)にあさひの丘病院にて開催しました。「その場所へ行くシリーズ」第1弾の今回は参加者15名で、キャラバン隊かめの活動についてお話を伺い、病院と地域とのつながりの重要性を感じる会となりました。お忙しい中ご参加ありがとうございました。

《次回》

「その場所へ行くシリーズ」第2弾として9/26(水)にマインド葦にて開催します。作業所の活動についてと、共に歩む市民の会・年間テーマを考える予定です。様々な視点からご意見をいただきたいと思ってるので、ぜひご参加ください。

編 集 後 記

- ✿自宅隣の方が突然いなくなり、近所中で心配して騒ぎに…近所付き合いは、こういう時に大事かなって思いました。(0)
- ✿初めて会報づくりに携わりました。会員の皆さん、色々とアイディアをください (^ v ^) (T)
- ✿皆様夏バテしていませんか？今年の夏は暑かったですね～。これから味覚の秋。楽しみです。(S)